

日本における韓国語の言語景観と活用の可能性 (2)

—韓国語のヴォイスの導入の観点から—

尹 亭仁 ・ 稲毛 恵

Abstract

In this paper, we focus on the linguistic landscape in Japan, specifically grammar items that can be used in Korean grammar education, and look at examples of usage, focusing on Voice. Since there are eight types of voice in Korean, it takes a long time to introduce them in Korean classes. However, it was found that it would be easier to introduce the linguistic landscape by positioning it as a “Participation-guided visual text” and working on it. “Voluntary participation,” which makes students aware of the linguistic landscapes that are being spread throughout Japan and calls for students to provide information, and Korean language learning, which is used for explanations in museums and art galleries, as “outdoor study,” will stimulate discussions in Korean class. In addition, it was suggested that the presentation of expressions of prohibition, which are increasing, can be carried out.

Since the stance of “multicultural coexistence” and “cross-cultural understanding” is also reflected in the background of Japan’s multilingual signs, they are educational because such a shared perspective leads to understanding of Korean culture. In this paper, we have discussed the effectiveness of the similarities and differences between Japanese and the Korean languages that are emerging from the linguistic landscape, but the range of effective use seems to vary depending on the specific approach and the what point of view.

キーワード：韓国語、ヴォイス、参加誘導型視覚教材、自発的参加、多言語表示サービス施設、授業外学習

1. はじめに

今日、日本の多言語表示から、北は札幌市から南は那覇市まで、多くの都市で日本語に加え、英語、簡体字中国語・繁体字中国語、韓国語が見ら

れるようになった。図1～図8の空港やJR駅、道路などの公共の場での多言語表示は徹底していると言えるほどである。筆者たちはここ数年、多言語表示の調査のため、10以上の日本の都市を回ったが、この傾向は共通していると言えそうである。特に、福岡をはじめ、大阪、神戸、熊本、鹿児島、長崎での韓国語の表示は驚くほど整備されている。



図1 山形 (2023)



図2 熊本 (2022)



図3 新千歳空港 (2022)



図4 那覇空港 (2022)



図5 横浜駅 (2022)



図6 横浜駅 (2022)



図7
東京市内 (2023)



図8 長崎空港 (2022)

長年、日本の大学で韓国語教育に携わっている筆者たちにとって、履修生のレベルとニーズに合う適切な教材選びは非常に重要なことである。韓国の新聞や雑誌での広告などを「視覚教材」として授業で取り上げてきた筆者たちは現在、図1～図8の日本の多言語表示に見る韓国語の表現を「参加誘導型視覚教材」と位置づけ、初級韓国語クラスからレベルに合わせて中級や上級の授業で活用しつつ、履修生に授業の内容と関連する写真の提出や情報の提供など積極的な参加を呼びかけている。図1と図2は初級クラスで日本の地名の韓国語での書き方の例として、図3～図5は日韓両言語における漢語の対応の例として、図6は中級クラスで「落下する」「注意する」などの漢語動詞の例として、図7は漢語のみならず「V-아 주세요/주십시오」の「依頼表現」の用例として、図8は敬語表現に用いられる語尾の「-시-」の用例として提示している。初級クラスでは参加の一環として最寄り駅やよく利用する駅の案内に用いられている韓国語の写真を数枚提出させているが、学生たちの反応は非常によく、随時提出する学生もいる。このような「気づき」と「自発的参加」への誘導が筆者たちの授業での意図するところである。

本稿では、このような日本の多言語表示を、韓国語の授業で導入と説明に時間のかかる使役表現と受身表現の活用に役立てる取り組みに焦点を当て、学習者の自発的参加と学習意欲にどれほど有効かについて論じる。学習者の「自発的参加」を促す取組みを「学習者参加誘導型授業」と位置づけ、現段階での学習効果についても取り上げたい。

2. 先行研究の考察

近年、日本では言語景観に関する研究が益々注目を集めており、総論としての『日本の言語景観』(2009)、『世界の言語景観 日本の言語景観 景色の中のことば』(2011)、『言語景観から考える日本の言語環境 方言・多言語・日本語教育』(2022)に、観光からのアプローチである『観光言語を考える』(2020)、さらに多言語社会としての日本を取り上げている論考も増えている。代表的な著作として『多言語社会日本』(2013)、『多言語主義社会に向けて』(2017)、『顕在化する多言語社会日本』(2020)などが挙げられる。本稿での主眼は言語景観を活用した外国語教育、とりわけ韓国語教育であるが、これについてはまだ研究が進んでいるとは言えない状況である。尹亭仁(2015)ではソウルでの多言語表示と語彙レベルでの外

国語学習が取り上げられており、尹亨仁（2021）および尹亨仁（2022）では日本における韓国語の言語景観を韓国語教育に生かせる可能性が論じられているが、このようなアプローチは始まったばかりとも言えそうである。磯野英治（2020）では言語景観をテーマ別に取り上げ、日本語教育の1つの学習書として提示しているが、本稿で目指す学習者を対象とした文法教育ではないため、方向性が異なる。今後、日本の言語景観を対象に様々な観点からのアプローチは増えると思われる。

本稿では尹亨仁（2021）および尹亨仁（2022）で提示された言語景観を有効活用する取組みを参考にしつつ、筆者たちの調査資料を加え、ヴォイスの導入と説明に生かせる取組みを中心に論じたい。

3. ヴォイスへの活用可能性

3.1 ヴォイスの導入の必要性

使役構文と受身構文（以下、「ヴォイス」と称する）は韓国語の構文の理解に欠かせない項目の1つである。日韓両言語において大きな共通点として取り上げられる「助詞の用法」に支えられているこのヴォイスは、他の文法カテゴリー、例えばテンス、アスペクト、モダリティーと違って助詞の移動により文の構造が変わるため、対応関係を中心に平面的に捉えがちな助詞の用法が移動を中心に立体的に捉えられる側面を持っている。ヴォイスはヴォイス形式が文の中で動詞または形容詞の語幹に接続して、共起する助詞の役割を変える文法カテゴリーである。日韓両言語で、ヴォイスが多く文法書や辞書で取り上げられているのもそのためである¹⁾。

3.2 ヴォイスの導入における問題点

韓国語のヴォイスは派生関係が日本語に比べ非常に複雑である。尹亨仁（2020）で取り上げられているように、主に3年次を対象とした上級クラスで使役構文3回と受身構文5回、全8回にかけて取り入れる場合もある。中級レベルから用法が増えてくる受身動詞の「VN- 되다 doida」や、一部の語彙性の強い使役動詞と受身動詞の用法の説明のためにもヴォイスの体系的かつ分かりやすい導入と用例の提示は韓国語の教育現場において重要な課題の1つである。

3.3 韓国語の使役動詞

韓国語のヴォイスを論じる前に、韓国語の使役動詞の分類を見ておきたい。韓国語の使役動詞の分類についてはいくつかの見方があるが、本稿では尹亭仁(2005)に従い、以下のような分類に沿って論を進めることにする。韓国の学校文法では本稿での「Ⅰ類の使役動詞」と「Ⅱ類の使役動詞」は認められているものの、「Ⅲ類の使役動詞」は認められていないが、近年韓国語学の研究では(1abc)の3種類を認める傾向が強くなっている。

- (1) a. Ⅰ類の使役動詞：
固有語形容詞語幹 + -이(-히/-ㄹ리/-기/-이)우/-구/-추)다
固有語動詞語幹
- b. Ⅱ類の使役動詞：
動詞・形容詞語幹 + -게 하다
- c. Ⅲ類の使役動詞：
動詞性名詞 (VN) + -시키다

「Ⅰ類の使役動詞」と「Ⅱ類の使役動詞」に形容詞から派生したのものも含まれる。英語でも形容詞から派生した使役構文が成り立つことを考えると、特異な派生ではないと思われる。尹亭仁(2008)では(1a)のⅠ類の使役動詞の中で形容詞から派生した14語が提示されている。

3.4 韓国語の受身動詞

韓国語の受身動詞は使役動詞より派生関係が複雑である。本稿では尹亭仁(2005)の以下のような分類に従う。

- (2) a. Ⅰ類の受身動詞：固有語動詞語幹 + -이(-히/-리/-기)다
- b. Ⅱ類の受身動詞：動詞語幹 + -아/어지다
- c. Ⅲ類の受身動詞：動詞性名詞 (VN) + -되다/-받다/-당하다

受身動詞もこのように複雑であるため、筆者たちは5回に分けて取り上げたり、使役動詞と受身動詞が同じ形態の「이, 히, 리, 기」のものもあつことで履修生を考慮し、中級クラスでは教材の中で扱われている動詞のみを取り上げて説明し、簡単な例文で練習をさせる程度にしたりしている。

上級クラスになると、使役の接尾辞の「이, 히, (으)리, 기, (이)우, 구, 추」
と受身の接尾辞の「이, 히, 리, 기」の違いをさらに詳しく取り上げ、それ
ぞれの動詞が使われている「状況」とそれを訳しながら意味が把握できる
ようにしている。

4. 韓国語の使役構文

4.1 韓国語の使役動詞の語構成と例

韓国語の I 類の使役動詞は (1a) に示したように、「固有語形容詞の語
幹」や「固有語動詞の語幹」に7つの使役接辞が結合して派生する。形容
詞や動詞の語幹によって使役接辞との結合が決まっているため、「語彙性
が強い」と言える。詳しく提示すると (3) のようになる。

- (3) a. - 이 - 系 : 먹다 - 먹이다 (食べる - 食べさせる)
 b. - 히 - 系 : 앉다 - 앉히다 (座る - 座らせる)
 c. -(으)리-系 : 놀다 - 놀리다 (遊ぶ - 遊ばせる)
 흐르다 - 흘리다 (流れる - 流す)
 d. - 기 - 系 : 남다 - 남기다 (残る - 残す・残らせる)
 e. -(이)우-系 : 서다 - 세우다 (立つ - 立てる・立たせる)²⁾ /
 止まる - 止める・止まらせる)
 타다 - 태우다 (乗る - 乗せる・乗らせる)
 f. - 구 - 系 : 솟다 - 솟구다 (聳え立つ - 聳え立たせる)
 g. - 추 - 系 : 맞다 - 맞추다 (当たる - 当てる /
 合う - 合わせる)

尹亭仁 (2008) に小説や新聞の用例から集めた125語の使役動詞が提示
されているが、実際使われている動詞は150語前後であると思われる³⁾。

4.2 日本の言語景観に見る韓国語の使役動詞

現在、日本での韓国語の言語景観の様子を見ると語彙力だけでなく、文
法も学習できるほど様々な内容が展開されている。注意を払うと言語景観
から多くの文法項目の用法を確かめることができる。まず、3種類の使役
動詞の様子からそれを見てみよう。言語景観からは (1a) と (3) に提示
した I 類の使役動詞の様子が見られた。

4.2.1 I類の使役動詞

4.2.1.1 -이-系



图9 졸이다 (落とす)

4.2.1.2 -히-系

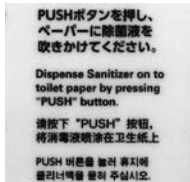


图10 묻히다 (付ける)

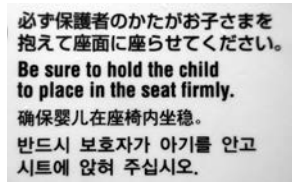


图11 앉히다 (座らせる)

4.2.1.3 -(으)리-系



- 提取方法
 券筒 貸기
 1 请确认牌子号读天 读后，插入硬币。
 2 按住柜门按钮向右侧转动并打开柜门。
 3 将硬币放入 硬币筒 并取出硬币。

图12 돌리다 (回す)

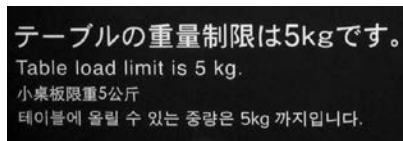


图13 올리다 (上げる・載せる)

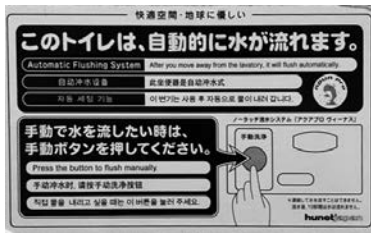


图14 내려가다 (流れていく、自動詞)



图15 내리다 (流す、使役動詞)⁴⁾



図16 알리다 (知らせる)

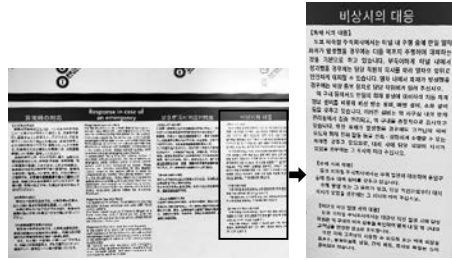


図17 알리다 (知らせる)

4.2.1.4 - 기 - 系

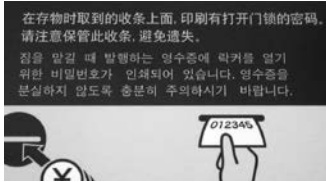


图18 맡기다 (預ける)

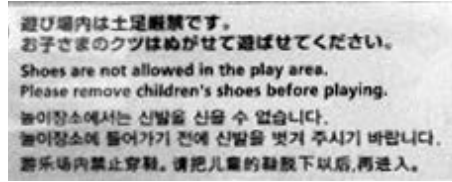


图19 벗기다 (脱がせる)

4.2.1.5 - (이)우 - 系



图20 세우다 (立たせる)



图21 비우다 (空ける) > 비우기



图22 깨우다 (起こす)



图23 피우다 (吸う)



図24 태우다 (乗せる)

4.2.1.6 - 구-系

「-구-系」はそもそも語数が多くないこともあり、日本の言語景観からは見られなかった。

4.2.1.7 - 추-系

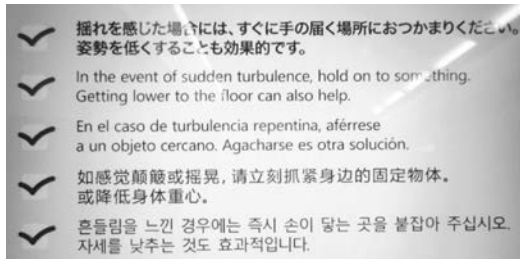


図25 낮추다 (低くする)

ここまで、日本の言語景観から図9～図25のI類の使役動詞の用例を見てみた。全体的に取り上げた語数は多くないが、使用頻度が低くない。尹亭仁(2008)で取り上げられているように、多くの使役動詞は、対応する自動詞用法はなく、特定の名詞とのコロケーションまたは「再帰用法」や「拡張用法」に支えられている。

- (4) a. 꽃이 피다 - 꽃을 피우다 (花が咲く - 花を咲かせる)
- b. *담배가 피다 - 담배를 피우다 (タバコを吸う)
- c. * - 재물을 피우다 (赤ん坊がかわいいしぐさをする)
- * - 소란을 피우다 (騒ぎ立てる)
- * - 바람을 피우다 (浮気をする)

図(23)の「담배를 피우다:タバコを吸う」は「*담배가 피다」⁵⁾から派生した使役構文ではない。(4a)の「꽃을 피우다」の「피우다」は使役動詞で、「담배를 피우다」の「피우다」は他動詞という捉え方もあるが、本稿では「피다」から派生した「피우다」は使役動詞で、(4bc)のように対応する自動詞用法のない構文は使役動詞「피우다」の「拡張用法」として捉えている。韓国語の使役動詞の高い使用頻度はこの拡張用法に支えられているところが大きい。

4.2.1.8 関連する自動詞または他動詞と結び付けて提示

言語景観には使役動詞以外に頻度の高い動詞が多く用いられている。とりわけ図26には「歩く:걷다」「立つ:서다」「乗る:타다」が用いられている。図27には「脱ぐ:벗다」が、図28には「座る:앉다」が、図29には「타다」が用いられている。

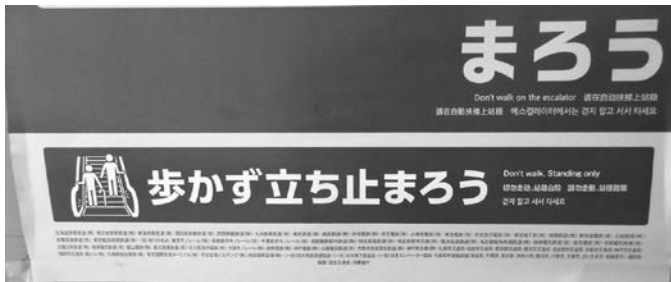


図26 걸지 말고 서서 타세요 (新潟・2021)



図27 벗다
(羽田空港・2023)

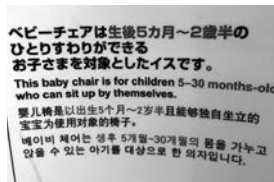


図28 앉다
(横浜・2023)



図29 타다
(熊本・2022)

頻度の高いこの4つの動詞はいずれも(5abcde)のようにI類の使役動詞を持っている。中級以上の授業でヴォイスに触れる際は上記のような図

を提示し用法を取り上げると効果的である。

- (5) a. 걷다-걸리다 (歩く-歩かせる)
 b. 서다-세우다 (立つ-立てる・立たせる)
 c. 벗다-벗기다 (脱ぐ-脱がせる)
 d. 앉다-앉히다 (座る-座らせる)
 e. 타다-태우다 (乗る-乗せる・乗らせる)

4.2.2 II類の使役動詞

日本の言語景観からII類の使役動詞の「V-게 하다」の用例は多くなかった。まず、实例を見てみよう。

図30は公共施設でよく目にする消火器の使用説明文である。日本語の他動詞の「向ける」の訳が使役動詞になっている。このように、日本語では他動詞であるが、韓国語では使役動詞が対応する場合も多々ある⁶⁾。図31の場合、(6)のように禁止を表わす「V-지 못하게 하다」になっている。近年増えている禁止表示の傾向から「V-지 못하게 하다」の用例はこれから増加すると思われる。このような傾向を中級や上級クラスの履修生と共有し、写真の提供を呼びかける、すなわち「参加を誘導する」のも効果的であると思い、授業での具体的取組みについて模索している。



図30 向하게 하다 (横浜・2023)



図31 못하게 하다 (東京・2023)

- (6) a. 일어서-지 못하게 하다 (立たせない)
 b. 벗어나-지 못하게 하다 (ずれさせない)

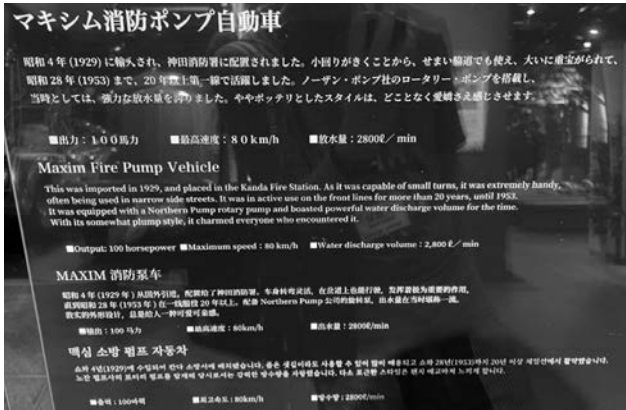


图32 느끼게 하다 (東京・2023)

图32의 「느끼게 하다: 感じさせる」에 이용된 「느끼다」는 頻度가 높은動詞であるため、授業では有効活用できる。

ここまで、韓国語のⅡ類の使役動詞の用法を見てみた。取り上げた用例は多くないが、禁止表示の「V-지 못하게 하다」と頻度の高い「느끼게 하다」を中心に提示できることの示唆を得た。

4.2.3 Ⅲ類の使役動詞

尹亨仁(2023)によると、「VN-하다hada」から派生する使役動詞の「VN-시키다sikida」は「VN-하다」の語数に比べ生産性は非常に低い。また使用語数も減りつつある。日本における言語景観からもVN-sikidaの用例は多くなかった。実例を見てみよう。



图33 이동(移動)시키다



图34 이동(移動)

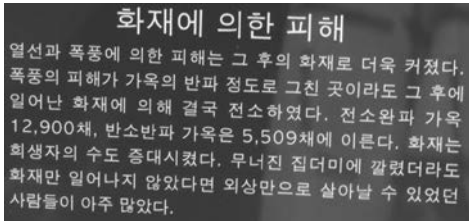


図35 증대(增大)시키다

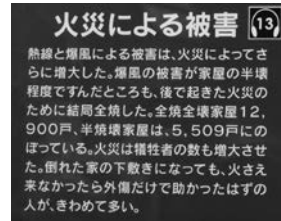


図36 増大させる

図33と図34は案内表示に見る「이동시키다：移動させる」とそのVNの「이동：移動」の用例である。図35は原爆資料記念館での説明に見る「증대시키다」で、図36の日本語の「増大させる」から用法の確認ができる。

ここまで、日本の言語景観に見る韓国語の使役動詞の様子を取り上げた。まだ十分な用例は集められていないが、これに履修生たちの参加を呼びかけて「自発的参加」を増やしていく取組みを作って完成度を高めていきたい。言語景観という「視覚教材」を用いることで履修生たちの「気づき」と「自発的参加」が期待できる。近年、博物館や美術館での案内や説明に多言語表示も増えている。このような「多言語表示サービス施設」を「授業外学習」の場として活用するのも教育的効果が大きいと思われる⁷⁾。

日本の言語景観に見られた韓国語の使役動詞をまとめると〈表1〉のようになる。このリストは6.1で取り上げる「頻度」と関係する。

〈表1〉 日本 の言語景観に見る韓国語の使役動詞

I類の使役動詞	깨우다・낮추다・내리다・돌리다・말기다・묻히다・ 벗기다・비우다・세우다・앉히다・알리다・올리다・ 줄이다・태우다・피우다
II類の使役動詞	느끼게 하다・못하게 하다・향(向)하게 하다
III類の使役動詞	이동(移動)시키다・증대(增大)시키다

5. 韓国語の受身構文

5.1 韓国語の受身動詞の語構成と例

韓国語のI類の受身動詞は(2a)に示したように、「固有語動詞の語幹」に4つの受身接辞が結合して派生する。使役動詞と4つの接辞を共有しているが、使役動詞と違って形容詞は受身動詞に派生できない。動詞の語幹

によって受身接辞との結合は決まっているため、「語彙性が強い」。詳しく提示すると(7abcd)のようになる。

- (7) a. -이-系 : 끼다-끼이다 (挟む・はめる / 挟まれる・はめられる)
바꾸다-바뀌다 (変える-変わる・変えられる)
- b. -히-系 : 막다-막히다 (塞ぐ-塞がる)
묻다-묻히다 (埋める-埋まる・埋められる)
- c. -리-系 : 몰다-몰리다 (追う-追われる)
열다-열리다 (開ける-開く・開かれる)
- d. -기-系 : 감다-감기다 (巻く-巻かれる)

5.2 日本の言語景観に見る韓国語の受身動詞

言語景観から(2a)と(7abcd)に提示したI類の受身動詞の様子を見よう。

5.2.1 I類の受身動詞

5.2.1.1 -이-系

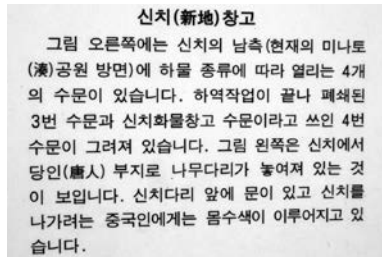


图37 쓰이다 (書かれる)・놓이다 (置かれる)

5.2.1.2 -히-系



图38 닫히다 (閉まる)

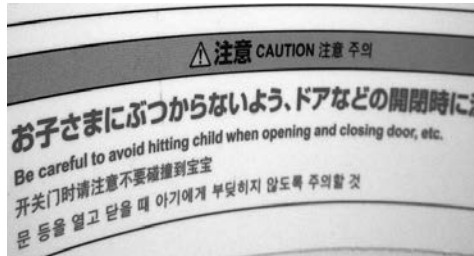


图39 부딪히다 (ぶつかる)

5.2.1.3 -리-系

水を求めながら亡くなった被爆者の冥福を祈る場所で、刻々と変化する水形は、平和のほとけの羽ばたきを形取り、つるの港といわれる長崎港のつるを象徴しています。

This is a place to pray for those victims who passed away whilst begging for water. The ever changing shape of the water evokes the beeping wings of the dove of peace and the crane. The crane is representative of Nagasaki Port, which is known as the 'Crane Port', because of its shape.

和平之泉是为在极度口渴中夜生的原子弹爆炸受害者祈祷冥福而建立的，瞬息万变的喷水量和平鸽展翅飞翔的形状，象征着被称为鹤之港的长崎港的仙鹤地形。

물을 찾으면서 죽어간 피폭자의 영복을 비는 장소로, 시시각각 변화하는 물의 형태는 평화의 영복을 비는鳩의 날갯짓을 나타내고 있으며 또한 력의 항구로 불리는 나가사키항의 력의 모습을 상징하고 있습니다.

图 40 불리다 (呼ばれる)



图 41 매달리다 (ぶら下がる)

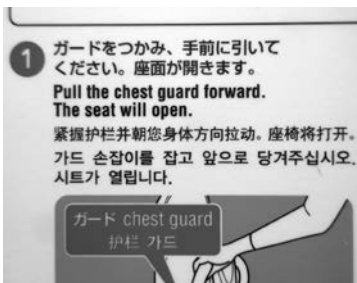


图 42 열리다 (開く)



图 43 열리다 (開く)

5.2.1.4 -기-系

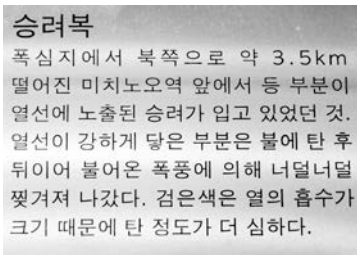


图 44 찢기다 (引き裂かれる)

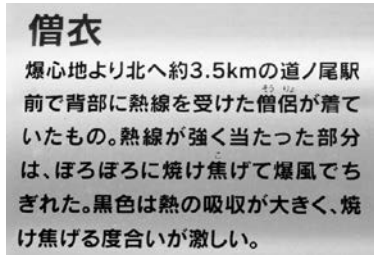


图 45 ちぎれる (長崎・2022)

日本の言語景観から図37～図45のようにI類の受身動詞のいずれの接辞の用例が見られた。用例が多く見られた「열리다」と対義語の「닫히다」の図を提示するためにはそれぞれの他動詞の「열다」と「닫다」の説明と合わせて提示すれば理解が早まると思われる。

5.2.2 II類の受身動詞

言語景観から (2b) に提示したII類の受身動詞の様子を見てみよう。



図46 내려지다 (降ろされる)

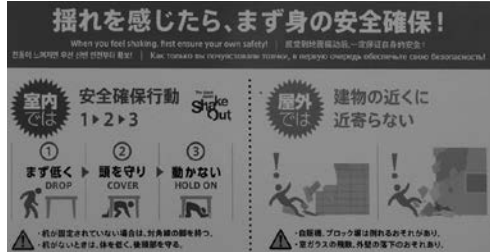


図47 느그지다 (感じられる)

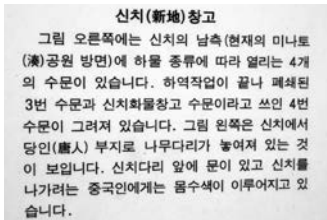


図48 그려지다 (描けられる)・
 이루어지다 (なされる)



図49 주어지다 (与えられる)

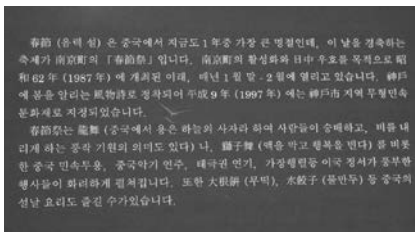


図50 펼쳐지다 (長崎・2022)

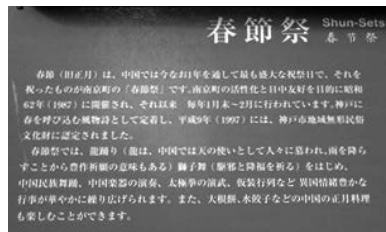


図51 繰り広げられる (長崎・2022)

図46～図51で言語景観に用いられたII類の受身動詞の様子を見てみた。いずれの用例も「説明」に用いられている。用いられた他動詞は「 그리

다・내리다・느끼다・이루다・주다・펼치다」で、「주다」以外は初級レベルの語彙ではない。Ⅱ類の受身動詞は中級以上のクラスでの導入が望ましいとの示唆を得た。また、中級や上級クラスでは説明文が多く見られる博物館や美術館のような「多言語表示サービス施設」での授業外学習を誘導し、韓国に行かなくても韓国語に触れる機会を提供するのも効果が高くなると思われる。

5.2.3 Ⅲ類の受身動詞

(2c) に提示したⅢ類の受身動詞の「VN-되다 doida/- 받다 babda/- 당하다 danghada」のVNには (8abc) の「漢語VN」のみならず、(9abc) の「固有語VN」も含まれる。中級または上級クラスで (8abc) や (9abc) のような例を提示する場合、VNの意味と文脈は理解できても3種類の受身接辞の住み分けの理解までには相当時間がかかる。

- (8) a. 금지하다 : 금지되다 (解決する : 解決される)
- b. 존경하다 : 존경받다 (尊敬する : 尊敬される)
- c. 무시하다 : 무시당하다 (無視する : 無視される)
- (9) a. 마련하다 : 마련되다 (準備する : 準備される)
- b. 사랑하다 : 사랑받다 (愛する : 愛される)
- c. 닦달하다 : 닦달당하다 (急き立てる : 急き立てられる)

日本の言語景観からⅢ類の受身動詞の「VN-되다」形から図を見てみよう。

5.2.3.1 「VN-되다」形

① 「VN-される」と「VN-되다」が対応する場合



図52 금지되다 (横浜・2022)

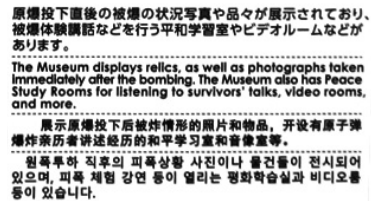


図53 전시되다 (長崎・2022)



図54 이용되다 (長崎・2022)



図55 적용되다 (東京・2023)

ここまで取り上げた〈VN-되다〉と〈VN-される〉との対応の例は (10) のようになる。

- | | |
|------------------|---------------|
| (10) a. 금지(禁止)되다 | 禁止 <u>される</u> |
| b. 전시(展示)되다 | 展示 <u>される</u> |
| c. 이용(利用)되다 | 利用 <u>される</u> |
| d. 적용(適用)되다 | 適用 <u>される</u> |

② 「VN-される」と「VN-되다」が対応しない場合

日本の言語景観に「VN-되다」で表示されても日本語は「VN-される」ではない用例も少なくない。図56～図60を通して「VN-되다」の用法を見てみよう。



図56 금지되다 (東京・2023)

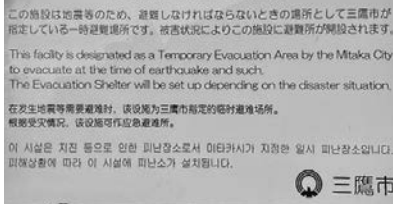


図 57 설치되다 (東京・2023)



図 58 준비되다 (神奈川大学・2022)



図 59 기록되다 (横浜・2021)



図 60 변경되다 (札幌・2022)

ここまで取り上げた〈VN-되다〉と日本語との対応の例は (11) のようになる。

- | | |
|-------------------------|----------|
| (11) a. <u>금지(禁止)되다</u> | 禁止です |
| b. <u>설치(設置)되다</u> | 開設される |
| c. <u>준비(準備)되다</u> | 備えている |
| d. <u>기록(記録)되고 있습니다</u> | 記録しております |
| e. <u>변경(變更)되다</u> | 変更する |

中級クラスで「VN-되다」の用法を導入する場合は (10) のリストを提示し、上級クラスでは (11) のリストと対応しない理由を取り上げることが望ましい。上記の図以外にも図61と図62のような「VN-되다」の用法も見られた。図63と図64の「방치(放置)-되다」と「방치(放置)-하다」の用法のペアから「放置する」も頻度が高い漢語動詞として受け止めることができる。

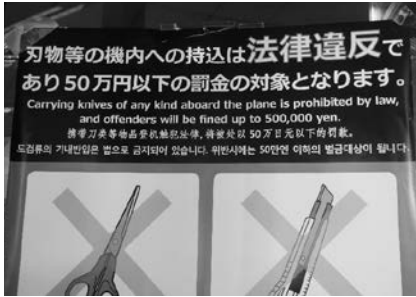


図61 금지되다 (羽田空港・2020)

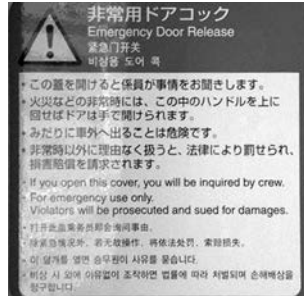


図62 처벌되다 (新幹線・2023)



図63 방치되다 (東京・2023)



図64 방치하다 (東京・2023)

言語景觀から「VN-되다」の用法が多く見られたが、対応の様子が複雑であることが浮き彫りになった。尹亭仁 (2020: 12) で取り上げられているように「VN-되다」は (12) のような派生関係を持っている。これから用例の数を増やし、(12) の住み分けの理論的根拠を、文脈を加えて具体的に説明する必要がある。

(12) VN-되다の品詞

- a. VN-되다 (形容詞)
- b. VN-되다 (自動詞)
- c. VN-하다/되다 (共存動詞)
- d. VN-되다 (自他両用動詞の受身動詞)
- e. VN-되다 (他動詞の受身動詞)

5.2.3.2 「VN- 받다babda」形



図65 처벌받다 (新潟・2021)

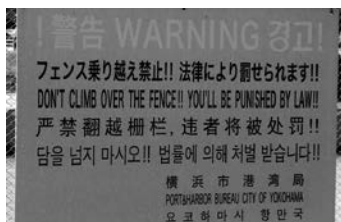


図66 처벌받다 (横浜・2022)

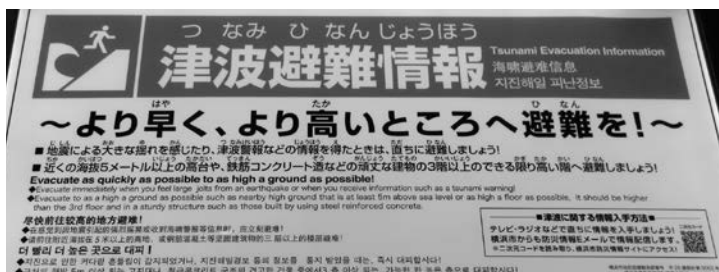


図67 통지받다 (東京、2023)

「VN- 받다」は予想通り多くなかった。授業では、図65・図66の「 처벌(處罰)받다」と図67の「통지(通知)받다」を「VN- 받다」の用例として提示し、用法の説明に努めたい。「VN- 받다」は主にVNが表わす「何かを受ける」意味に用いられるが、「VN- 되다」と違って構文の中でヲ格標示の目的語が共起できる統語的特徴を持っている。言い換えれば、これが「VN- 받다」が受身構文に加わっている統語的根拠である。

5.2.3.3 「VN- 당하다 danghada」形

日本の言語景観から「VN- 당하다」の用例は見られなかった。参考にするべくソウルの言語景観から探そうとしたが、見当たらなかった。尹亭仁(2020: 18)で取り上げられているように1冊の散文で用いられた「VN- 당하다」のVNは(13)のようにいずれもネガティブな意味を有している。(14)のVNが言語景観で用いられる状況は想定しにくいし、社会的に不安をおもえる意味であるため、使用は厳しいと思われる。

- (13) 간파(看破)・거절(拒絶)・기소(起訴)・살해(殺害)・수용(收容)・총살(銃殺)・침범(侵犯)・파괴(破壊)・학살(虐殺)

ここまで、日本の言語景観に見る韓国語の受身動詞の様子を取り上げた。まだ十分な用例は集められていないが、図を通して韓国語のヴォイスの全体像を眺めることはできた。さらに、履修生たちの自発的参加が求められる余地が大いにあることが分かった。

日本の言語景観に見られた韓国語の受身動詞をまとめると〈表2〉のようになる。このリストも6.1で取り上げる「頻度」と関係する。

〈表2〉 日本の言語景観に見る韓国語の受身動詞

I類の受身動詞	놓이다・닫히다・매달리다・부딪히다・붙리다・쓰이다・열리다・찢기다
II類の受身動詞	내려지다・느껴지다・이루어지다・주어지다・펼쳐지다
III類の受身動詞	【되다】 금지되다・기록되다・방치되다・변경되다・설치되다・이용되다・전시되다・적용되다・준비되다 【받다】 처벌받다・통지받다 【당하다】 —

6. 日本の言語景観と韓国語教育への影響

日本における言語景観が韓国語教育に及ぼしている影響は様々であるが、本稿では「頻度」と「相乗効果」への影響を中心に取り上げたい。

6.1 頻度

外国語の語彙教育において「頻度」は非常に重要な要素である。多くの外国語の辞書の見出し語に見られる*の数も頻度が高い、すなわちよく用いられる重要語彙であることを示している。頻度の高い語彙を提示すべく使用語彙の語彙調査もしばしば行なわれる。尹亨仁(2020)もその一例で、韓国語の漢語動詞の提示に説得力を持たせるため、韓国の小説や新聞の社説を用いて何度も語彙調査を行ない、頻度の高い漢語動詞の用法を授業で「頻度の高い」語彙として強調しながら取り上げている。このような傾向は日本で刊行される韓国語の辞書の見出し語にも反映されている⁸⁾。

筆者たちは日本の言語景観に用いられている韓国語を使用語彙として捉

え、とりわけ駅周辺でよく目にする「禁止：금지(禁止)」「禁煙：금연(禁煙)」「案内：안내(案内)」や「出口：출구(出口)」「入口：입구(入口)」「中央：중앙(中央)」などを頻度が高い語彙と見なし、授業での提示に心がけている。今後本稿で提示してきたヴォイスの図を追加調査で整備して、「参加誘導型視覚教材」として授業で積極的に提示していく計画である。このためにも履修生の「自発的参加」と「多言語表示サービス施設」での授業外学習は非常に重要である⁹⁾。

6.2 韓国語の教材などに見るヴォイスとの相乗効果

日本の言語景観に見るヴォイスの図は現段階で韓国語教育においてメイン教材にはなっていない。複雑な韓国語のヴォイスの派生関係を上に提示した言語景観の図とレベルに合わせた用例を視覚的に導入してから文法教材または講読教材を取り上げると、相乗効果が得られる。この点において筆者たちは履修生たちの授業での参加態度に手ごたえを感じている。

韓国語のヴォイスの用法は全体的に日本語ほどはっきりしていない分、注意を促さない限り、気づきにくいところがある。筆者たちは取り上げている講読教材でのヴォイスを、事前に見せた図を喚起させながらあらかじめリストと意味を提示しておく。参考としてリストを見てみよう。

6.2.1 中級教材

中級クラスで下記の3つの教材を講読資料として用い、用法に注意を促している。それには下記のような動詞が用いられている。

6.2.1.1 「엄지공주」(「親指姫」)

【使役動詞】 남기다(残す)・태우다(乗せる)／결혼시키다(結婚させる)
【受身動詞】 놓이다(置かれる)

6.2.1.2 「신데렐라」(「シンデレラ」)

【使役動詞】 남기다(残す)・내리다(下す)・놀리다(からかう・遊ばせる)・알리다(知らせる)
【受身動詞】 띠다(目につく)・열리다(開く・開かれる)・풀리다(解ける・ほどける)／벗겨지다(脱げる)

6.2.1.3 『이슬이의 첫 심부름』 (『はじめてのおつかい』)

【使役動詞】 내다(出す)・맞추다(合わせる)・옮김(訳すこと)・올리다(泣かせる)
【受身動詞】 걸리다(かかる・かけられる)・놓이다(置かれる)／걱정되다(心配になる)

日本語の『はじめてのおつかい』(1976)の韓国語翻訳版である『이슬이의 첫 심부름』(1991)を取り上げる際は、日韓両言語においてヴォイス同士が必ずしも対応するものではないことにも注意を向けさせている。日本語版で用いられている「頼まれる」や「消される」が韓国語版では異なる表現になっている。

6.2.2 上級教材

上級クラスでは下記の3つのテキストが講読資料として用いられている。

6.2.2.1 「콩쥐 팥쥐」(「コンジとパッジ」)

【使役動詞】 남기다(残す)・신기다(履かせる)・알리다(知らせる)・채우다(満たす)／찾아오게 하다(探させる)／일시키다(働かせる)
【受身動詞】 들리다(聞こえる)・모이다(集まる)・열리다(開く・開かれる)／깨지다(壊れる・割れる)・벗겨지다(脱げる)

6.2.2.2 「소나기」(「ソナギ」)

【使役動詞】 내다(出す)・내리다(下す)・돌리다(回す・回らせる)・붉히다(赤らめる)・입히다(着せる・着させる)
【受身動詞】 걸리다(かかる・かけられる)・뜰이다(そがれる・折れる)・들리다(聞こえる)・보이다(見える・見られる)・엎히다(負ぶわれる)・갈림길(分かれ道)／지워지다(消える・消される)

6.2.2.3 『아낌없이 주는 나무』(『大きな木』)

【使役動詞】 なし
【受身動詞】 매달리다(ぶら下がる)

英語の *The Giving Tree* (1964/1992) の韓国語翻訳版である 『아낌없이 주는 나무』 (2000) を取り上げる際、日本語翻訳版の 『大きな木』 (2010) との翻訳の違いについても触れる。日本語には「言われる」「震わせる」が用いられているが韓国語は異なる表現になっており、日韓両言語のヴォイスの不一致にも気づかせる。

筆者たちは受験生が増えている「ハングル能力検定試験」や「韓国語能力試験 (TOPIK)」に出題されるヴォイスも「頻度」が高い動詞として捉え、授業の中で提示している。「言語景観」「教材」「検定試験」などが相乗効果をもたらし、全体的に韓国語のレベルを上げていくと思われる。

6.3 言語景観の導入の有効性

言語景観を韓国語の授業に取り入れた際の効果は多々あるが、主に下記のこと提示できそうである。

6.3.1 「気づき」のきっかけ

筆者たちは本稿でのいずれの図も履修生に韓国語の文法項目についての「気づき」と実例の資料として活用している。図は文法項目の説明に文脈のみならず具体性も加えてくれる。そのため、適切な図を見つけることが筆者たちにとっては「例文作り」や「用例探し」に近い作業である。

6.3.2 授業外学習と自発的参加への誘導

授業で図を提示すると視覚的効果により集中力が高まり、反応もよくなるため、授業に積極的に取り組める。ポストコロナでPPTを用いる授業も増えているため、図の提示もしやすくなっている。また、「多言語表示サービス施設」で授業外学習をした履修生から提供された図を共有することによって授業への自発的参加にも役立つ。

6.3.3 新たな文法項目および新語の学習

昨今の増えている外来語の用法を含め、言語景観から新たな言語情報の収集も可能である。図7と図8を見れば分かるように、1枚の図に1つの文法項目があるわけではなく、助詞「에」の用法に加え、敬語を表わす語尾の「-시-」、使役動詞の「되들리다」、補助動詞の「V-아 놓다」、依頼表現の「V-세요/십시오」の予習や復習にも用いられる。図を活用すること

で外国語の学習に欠かせない「繰り返し」の練習にもなる。図56を使うと10以上の文法項目の提示が可能である。

さらに、言語景観は新語の学習にも役立つ。図68の「무음모드」と図69の「매너모드」は韓国語でも用いられている。主に図70の「진동(振動)」が用いられているが、下記の2つも使われているので、日本にいながら新語の学習ができる。

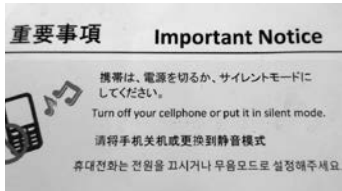


図68 무음모드
(東京・2021)



図69 매너모드
(東京・2023)



図70 진동
(ソウル・2022)

図71の「충진(充填)」と図72の「안전벨트」も新しい語彙の獲得になる。図72の「안전벨트」と一緒に「착용(着用) 하다」というコロケーションも学習できる。



図71 チャージ：충진



図72 シートベルト：안전벨트

6.3.4 より自然な用例の提示になる

筆者たちは現在日本の大学で用いられている多くの韓国語のテキストや文法書に提示されている例文に違和感を覚えることが多々ある。この背景には文法項目の設定に合わせて用例を作成する事情があり、やむを得ないことには理解を示す。

言語景観の場合、韓国語母語話者による用例の適切さのフィルタリングをしてから授業で取り上げると、より自然な用例の提示が可能になる。日

本の言語景観には、日本語からの直訳や機械翻訳のようなものも多いため、複数の母語話者によるフィルタリングと細心の注意が求められる。これを補う形として、履修生たちが日本の言語景観に慣れてきたら韓国語の言語景観を提示すると、更なる効果が得られる。筆者たちは中級クラスおよび上級クラスでは文法の説明に合わせて韓国語の言語景観の提示にも努めている¹⁰⁾。

6.3.5 韓国語の言語景観への自然な乗り換え

ポストコロナとともに留学または観光のため韓国を訪れる韓国語履修生が増えている。神奈川大学の場合、初級クラスだけで20クラス以上開講されているが、履修生は増える一方である。韓国語履修生や留学生たちが、ソウルで増える一方の案内表示や禁止表示から無理なく情報を得るためにも、また現地での新たな学習効果を得るためにも日本での韓国語の言語景観の活用に慣れるのが有益だと考えられる。

図73と図74は日本の言語景観でも見られた「닫히다」と「열리다」の用例である。図75は「끼이다」、図76は「처벌되다」の用例である。このような図の提示は履修生たちが韓国の言語景観にも興味を持つきっかけとなる。

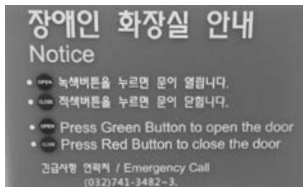


図73 열리다/닫히다 (ソウル・2022)

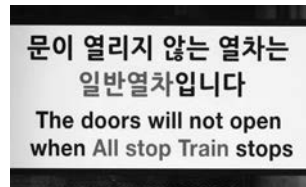


図74 열리다 (ソウル・2022)



図75 끼이다 (ソウル・2022)

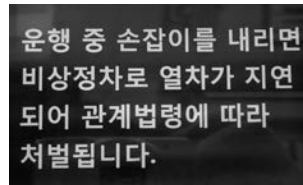


図76 처벌되다 (ソウル・2023)

ここまで、日本の言語景観の導入が韓国語の授業にもたらず学習効果について取り上げ、用法の気づきや文法の具体的な説明などに効果が得られると論じた。しかし、言語景観の授業への導入に立ちはだかる問題も少なくない。それについては稿を改めて取り上げたい。

7. おわりに

本稿では、日本における言語景観、とりわけ韓国語教育に生かせる文法項目に着目し、ヴォイスを中心に用例を見てみた。取り上げた用例は多くないが、視覚教材としてヴォイスの導入に役立つことが分かった。さらに、禁止表示を中心に提示できることの示唆も得た。

日本の多言語表示の背景には「多文化共生」や「異文化理解」の姿勢も反映されているため、このような観点の共有が韓国文化への理解にもつながるため教育的であると言えそうである。

言語景観から浮き彫りになりつつある日韓両言語の類似点と相違点をどのような観点から具体的にアプローチするかによって有効活用の幅は違ってくると思われる。本稿ではヴォイスとの関連からその有効性を論じたが、助詞の用法、アスペクト、テンス、可能表現などからも有効性を見出せると思う。いずれも今後の課題としたい。

* 謝辞：本研究は、JSPS 科研費 19K00775 の助成を受けたものである。

注

- 1 韓国語に関しては『韓国語統辞論』(1992)、『韓国文法論講義』(1999)、『標準国語文法論』第4版(2014)、『韓国語動詞辞典』(2021)などが挙げられる。
- 2 中島(2021:355)では「-이-·-히-·-리-·-기-」などを「ヴォイス接尾辞」と言い表しながら「서다-세우다(立つ-立てる)」のペアを「他動詞」と分類している。「세우다」の(使役)対象が人の場合は「立つ-立たせる」になる。この場合は「使役動詞」になるのか、分類の基準がはっきりしていない。「-리-」と「-기-」で派生された「신기다(履かせる)」と「알리다(知らせる)」が他動詞に分類されていることにも疑問を抱く。沖森卓也・曹喜澈(2014)にも使役接辞が用いられた動詞を使役動詞と他動詞に分けているが、区分の基準が提示されていない。
- 3 この予想値は筆者が20年以上韓国の小説や新聞などの用例から集めた数による。『엣센스국어사전: 에센스国語辞典』第6版(2010)には筆者たちにとって使用語彙はおろか理解語彙でもないヴォイス動詞がかなり載っている。使役と受身のそれぞれ300語以上になりそうであるが、日本の韓国語教育においては、言語景観お

よび教材、検定試験に出題されている傾向からそれぞれ60語ほどで充分であるとと思われる。参考として、筆者たちにとって意味の把握にも苦しい使役動詞には「갈아들이다・갈아세우다・걸머메이다・걸어앉히다・낮익히다・내앉히다・들씩우다」、受身動詞には「가로질리다・꺼들리다・꺼들리다・뒗걸리다・돌리다・들뜨이다・들이밀리다」などが上記の辞書には載っている。

- 4 図13の「오르다-올리다」と図14の「내리다-내리다」は統語的にも意味的にも対をなしている。本稿では図14のように自動詞と使役動詞の派生に形態的变化が見られない場合、「ゼロ派生」と捉えている。
- 5 * は当該の語彙または文が誤用か非文法的であることを表わす。
- 6 日韓両言語においてヴォイスが一致しないことについては尹亭仁 (2005) を参照されたい。
- 7 尹亭仁 (2014) などがその例である。
- 8 筆者の尹はゼミ生たちと博物館や美術館に言語景観の調査に出かける。特別展以外は多くのところで日本語と英語のみならず中国語と韓国語の表示も見られるようになった。2023年8月に訪れた京都国立博物館、2024年2月に訪れた東京国立博物館でも多くの韓国語の表示を見ることができた。コロナのため積極的に取り組めなかった授業外学習としての言語景観の調査を2024年度より再開する予定である。
- 9 2023年10月16日、筆者たちは本学の上級韓国語履修生10人にヴォイスの図を見せ、参加(図の提供)を呼びかけたところ、反応が非常によかった。本稿でも履修生から提供された図が同意のもと使われているが、現在上級の履修生からヴォイスの図が提供されることを楽しみにしている。履修生たちの反応から従来筆者たちがいい用例を作った履修生をほめていたことを上回る効果をもたらすと期待している。
- 10 筆者たちは文法項目の説明に必要な言語景観の収集のため、2023年8月28日～31日、ソウル市内の調査に出かけた。多くの用例の収集に加え、外来語使用の増加、ヴォイスにおいては「VN-되다」の使用が増えていることに気づいた。ソウルの言語景観における変化を今後の授業の展開に反映していくつもりで、特に「VN-되다」の用法の提示にさらに力を入れる方向で検討を重ねている。

参考文献

- 磯野英治 (2020) 『言語景観から学ぶ日本語』大修館書店
 沖森卓也・曹喜澈 (2014) 『韓国語と日本語』朝倉書店
 内山純蔵監修 (2011) 『世界の言語景観 日本の言語景観 景色のなかのことば』桂書房
 庄司博史・P・バックハウス・F・クルマス (2009) 『日本の言語景観』三元社
 多言語化現象研究会編 (2013) 『多言語社会日本』三元社
 ダニエルロング・斎藤敬太 (2022) 『言語景観から考える日本の言語環境—方言・多言語・日本語教育』春風社
 中島仁 (2021) 『これからわかる韓国語文法 入門から上級まで』NHK出版
 平高史也・木村護郎クリストフ編 (2017) 『多言語主義社会に向けて』くろしお出版
 福永由佳 (2020) 『顕在化する多言語社会日本 多言語状況の的確な把握と理解のために』三元社

- 山川和彦編 (2020) 『観光言語を考える』 くろしお出版
- 尹亭仁 (2005) 「韓国語と日本語のヴォイス構文に関する対照研究—動作主の格標示と構文の生産性を中心に」 東京大学大学院総合文化研究科博士論文
- 尹亭仁 (2008) 「韓国語の使役動詞の用法—I類の使役動詞の用法上の特徴を中心に—」 『言語の個性性と普遍性』(神奈川大学言語研究特集号) 神奈川大学言語研究センター
- 尹亭仁編 (2014) 『身につく韓日・日韓辞典』 三省堂
- 尹亭仁 (2015) 「ソウルの言語景観—英語・日本語・中国語の表記を中心に」 『人文研究』 187, pp. 17-36, 神奈川大学人文学会
- 尹亭仁 (2020) 「韓国語の漢語ヴォイスの語彙調査—金薫の散文『鉛筆で書く』(2019)にみる漢語ヴォイスの使用状況—」 『神奈川大学言語研究』 42, pp. 1-26, 神奈川大学言語研究センター
- 尹亭仁 (2021) 「日本における韓国語の言語景観と活用の可能性 (1) —韓国語の漢語語彙力の向上の観点から—」 『神奈川大学言語研究』 43, pp. 1-34, 神奈川大学言語研究センター
- 尹亭仁 (2022) 「日本語母語話者に韓国語の2字漢語動詞を体系的に提示するための取組みについて」 67, pp. 103-119, 神奈川大学人文学研究所
- 尹亭仁 (2023) 「韓国語の「漢語 VN-sikida」の用法と派生上の特徴—2つの語彙調査の結果を中心に—」 『神奈川大学言語研究』 45, pp. 1-23, 神奈川大学言語研究センター

【韓国語】

- 金현권・宋喆義・朴만규・權在日 (2021) 『韓国語動詞辞典』 VegaBooks : ソウル
- 權在日 (1992) 『韓国語統辞論』 民音社 : ソウル
- 南基心・高永根 (2014) 『標準国語文法論』 第4版 図書出版 박이정 : ソウル
- 李翊燮・蔡婉 (1999) 『韓国文法論講義』 学研社 : ソウル
- 民衆書林編 (2010) 『엣센스국어사전 : エッセンス国語辞典』 第6版 民衆書林 : ソウル

童話

【日本語】

- 筒井頼子 『はじめてのおつかい』 (1976) 福音館書店
- 村上春樹訳 『大きな木』 (2010) あすなろ書房

【韓国語】

- 「소나기 : ソナギ」 (2012) 架橋出版 : ソウル
- 「신데렐라 : シンデレラ」 (2003) 三星出版社 : ソウル
- 『아낌없이 주는 나무 : *The Giving Tree*』 (2000) 시공주니어 : ソウル
- 「엄지공주 : 親指姫」 (2013) 키움Books : ソウル
- 『이슬이의 첫 심부름 : はじめてのおつかい』 (1991) 翰林出版社 : ソウル
- 「콩쥐 팥쥐 : コンジとパッジ」 (2011) 図書出版새샘(新泉) : ソウル

【英語】

- Shel Silverstein *The Giving Tree* (1964/1992) HarperCollins Publishers : New York